

日時：令和4年9月2日

開会 午後3時15分

○大阪市経済戦略局（馬越課長） それでは、定刻になりましたので、令和4年度大阪市イノベーション促進評議会を開催いたします。

本日の評議会は、大阪イノベーションハブの会場とインターネットを通じて相互に映像と音声の送受信を行う方法、いわゆるウェブ会議の形式で進行するとともに、Y o u T u b eにより同時配信しております。

まず初めに、各委員と映像と音声の相互通信に問題がないか確認させていただきます。

岡委員、いかがでしょうか。

○岡委員 大丈夫です。よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） よろしくお願ひします。

フォーリー委員、いかがでしょうか。

○フォーリー委員 はい、大丈夫です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） よろしくお願ひします。

山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員 大丈夫です。よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） はい、よろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。通信状況の確認は以上です。

本評議会は参考資料2の執行機関の附属機関に関する条例に基づき、設置されておりましたグローバルイノベーションの創出の支援に関する事項の調査審議などをお願いするものです。

どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、開会にあたりまして大阪市経済戦略局の米倉イノベーション担当部長から御挨拶申し上げます。

○大阪市経済戦略局（米倉部長） 米倉でございます。委員の皆様には、お忙しい中、当会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

司会のほうから紹介いただきましたけれども、この4月着任をいたしました、大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の米倉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この評議会でございますけれども、条例に基づきまして大阪市のイノベーション創出支援施策が実効性あるものとして推進をしていくだけのグローバルイノベーションやスタートア

ップ支援に精通する委員の皆さんから専門的知見に基づく評価、助言これらをいただくというを目的に開催をさせていただいております。本日は昨年度事業の主な取組の御報告をさせていただくとともに、今年度実施の事業等にかかる御助言、御意見承りたいというふうを考えております。御案内のように本市におけますイノベーション創出事業につきましては、昨年度からより弾力的な事業実施が行えるようにという狙いから大阪産業局への交付金事業となっておりまして、基本的には大阪産業局で実行していただいておりますので、本日も大阪産業局からも一緒に参加をさせていただいております。

本日非常に限られた時間ではございますけれども、委員の皆様から各種御意見を賜りまして、大阪のイノベーション施策の発展、それからエコシステムのより一層の充実といったところを図っていければというふうに存じますので、本日はどうぞよろしくお願いをいたします。

簡単ではございますけれども、御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いをいたします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） ありがとうございます。

それではここからは、北岡委員長に議事進行をお願いしたいと思います。

北岡委員長、どうぞよろしくお願いをいたします。

○北岡委員長 北岡でございます。

それでは、早速ですが議事を進めてまいりたいと思います。

資料1枚目の次第を御覧ください。

本日の議題は、先ほどもお話ありましたように、令和3年度の主な取組についてということと、前回の評議会における意見を踏まえまして、令和4年度以降の取組についてということになっております。

ではまず、議題（1）において、事務局より説明をいただいた後、各委員から御意見や御感想をいただきたいと考えております。

その後、議題（2）について、説明をいただき、皆様から御意見や御感想をいただきたいと思っております。

円滑な議事進行に御協力いただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、議題について、事務局から説明をお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理） それでは、説明をさせていただきます。

お手元にあります資料の大阪市イノベーション促進評議会資料、そちらのほうに基づいて

説明をさせていただきます。

まずは、議題（１）といたしまして、令和３年度の主な取組について御説明させていただきます。大阪市の主な取組というところで、大阪市の評議会となりますので、基本的には大阪市の取組について御説明させていただくものでございますけれども、併せまして大阪府下の全域であるとか、京阪神地域の連携事業についても御紹介させていただきます。

それでは、３ページ目を御覧ください。前回の評議会のほうでも御説明させていただきましたが、令和３年度からスタートアップ支援の事業手法というのも見直しを進めております。具体には右上の令和３年度からの事業手法の見直しというところにも記載をさせていただいておりますけれども、大阪市の仕様書を作って業務委託をする委託方式ではなく、大阪産業局に対する交付金事業として産業局が自主的、弾力的に事業を実施できるようにしております。これによりまして、単年度主義に陥らない時流に乗った支援ができるようにということで行っております。

続きまして、４ページ目に参りたいと思います。大阪市のイノベーション創出支援の体系というところがございます。こちらのところで、我々の大きなミッション、大阪市のイノベーション創出支援事業の中で一番大きなミッションというの一番下段に、下の囲みがございます大阪・関西におけるイノベーション・エコシステムの構築、スタートアップの創出・成長を目指していくというところで事業を行っております。こちらのほうで大阪市が大阪イノベーションハブで行っているスタートアップの創出支援事業と、右のほうにあります国、京阪神、大学、京都、経済界というところなどと連携しながら進めております。大阪イノベーションハブで具体にはコミュニティ形成、人材育成、プロジェクト創出を目指した様々なイベントやプログラムを実施しております。実施にあたりましては先ほども説明させていただきました産業局への交付金化のメリットを生かしまして、いろいろ前回の評議会でもいただいた御意見につきましては、可能な限り反映しながら取り組んでいるところでございます。

続きまして、主な取組５ページのほうに目次がございますけれども、まず説明させていただくのがスタートアップ・エコシステムの拠点都市について、次にエコシステムの構築の状況につきまして、それからグローバルイノベーションの取組。数字で令和３年度の成果と主な成果事例の紹介、産学官連携の取組について御説明させていただきます。

それでは、６ページの説明をさせていただきます。スタートアップ・エコシステム拠点都市についてというところで、こちらのほうはこの間、御説明もさせていただいておりまして御存じかと思っておりますけれども京阪神は全国４か所のグローバル拠点都市の内の一つとしまして、

様々な国の支援を受けてまいりました。特に、JETROに運営していただいております海外アクセラレーターによるプログラムにつきましては令和2年度、令和3年度の2年間行われております。大阪からは全部で18社のスタートアップ、京阪神でいきますと全部で45社が参加しております。今年度につきましては8月の中下旬まで公募が行われておりまして、まもなく対象となるスタートアップが選定される所でありまして、またこれは次回以降、委員の皆様にも御報告をさせていただきたいと思っております。今年度のコースにつきましては海外展開の準備でありますとかヘルスケア、クリーンテックなどなかなかきめ細かな支援メニューとなっております。過去の令和2年度3年度のプログラムに参加した大阪のスタートアップにつきましては、このJETROのアクセラレーションプログラムの参加がきっかけとなって国内外の大企業や投資家との連携や海外見本市の出展にも至ったというような成果も出ておるものでございます。

続きまして、7ページに参ります。エコシステムの構築で大阪における取組というのを御説明させていただきます。上段に大阪のエコシステムの特徴・環境というところでお示しさせていただいておりますけれども、大阪の強みというところでまずは他都市に先駆けてスタートアップの育成を行ってきております。大企業、大学・研究機関の集積もでございます。人材、産業の集積、それからコミュニティの充実、先輩起業家もたくさんおられます。あとは万博、うめきた2期、今年認定を受けましたスーパーシティということで大きなプロジェクトが大阪のエコシステムを語る上で背景となっております。

そうしたところから先ほどの拠点都市のほうでも御説明させていただきましたけれども、拠点都市事業を進める大阪コンソーシアムに集まったところが現在、産学官、金融機関など約50団体で構成されまして、産業局が事務局を務めております大阪イノベーションハブがその拠点となり、様々な取組や連携を通じてエコシステムの構築を進めております。大阪コンソーシアムでは、大阪産業局が中心となり、令和3年度からO-STEPという独自の情報発信の取組を始めております。7ページの下段のところに説明させていただいておりますが、コンソーシアムのメンバーがリソース、課題、支援プログラム等の情報を産業局のほうに持ち寄り、そこで発信して組織的にスタートアップの支援や課題解決を進めることを目指すものでございます。コンソーシアム全体として、課題解決、プロジェクト創出を目指し、取組を現在進めております。

続きまして、8ページ。こちらは京阪神がグローバル拠点となっておりますので、エコシステムの京阪神拠点の連携の御説明をさせていただいております。京阪神の各都市につきま

しては、従来特徴ある取組をしてきました。その各都市のよさを残しつつ、国内外への情報発信や大規模なイベント、それから金融情勢、スケールメリットを生かせるものについては連携を進めて実施しております。また、京阪神の大学間連携におきましては、関西の大学、産業界、金融機関、官公庁が参画するプラットフォームとして、K S A C というのを組織しまして、国の支援事業を活用して国の本格的な活動を進めております。K S A C につきましては、後ほどまた詳しく御説明させていただきます。

続きまして、9 ページで、グローバルイノベーションの取組を説明させていただきます。大阪イノベーションハブにおきましては、コロナの中でございますけれども、オンラインが主体となつてからも年間200を超えるイベントプログラムというのは継続して実施しております。海外の連携などにつきましては、オンラインだからこそ距離を気にすることなく活発な連携ができるようになっております。今年度に入ってからですけれども、コロンビアや台湾とのピッチイベントというのも開催しております。主なイベントというところで、記載させていただきますけれども、C o l o m b i a n & J a p a n e s e S t a r t u p T r e n d a n d L i f e S c i e n c e P i t c h S h o w c a s e でありますとか、台湾とのショーケースを実施しました。それと、戻ったところの4 ページの体系図のところプロジェクトのショーケースという位置づけをしております、国際イノベーション会議のH a c k O s a k a でございますけれども、昨年度は一般参加はオンラインのみで開催をいたしました。視聴参加者数は800人を超えるものでありまして、万博をテーマに空飛ぶクルマのテーマセッションでありますとか、産学融合にかかるセッションなどを実施しております。今年度も令和5年の2月21日に開催をする予定になっております。今回は現在の調整状況では、リアル開催を行う予定にしております。大阪のスタートアップ・エコシステムを世界に発信していくとともに海外スタートアップへの大阪の吸引力の向上を目指して、事業を進めてまいりたいと思います。

続きまして、10 ページ、数字で見る成果を御説明させていただきます。上のところは大阪のスタートアップエコシステム・コンソーシアム、産官学金で連携しているコンソーシアムの目標というところで、2020年から2024年までの5年間での目標というのを立てているK P I の項目でございます。大阪の目標といたしまして、スタートアップの設立件数、そのうち大学発のスタートアップ設立件数、それからユニコーンの輩出件数、5億以上の調達スタートアップ件数、起業家の聖地であるための外国人起業家の誘致件数、スタートアップV I S A の活用数、スタートアップの活躍というところで万博を契機に活躍するスタート

アップ輩出件数ということで目標として今コンソーシアムとして進めているところでございます。コンソーシアムとしての目標の数値と達成状況なんですけれども、国への中間報告をした選定後の2年弱の時点になりますけれども、順調に進捗してございます。スタートアップの設立数、大学のスタートアップ数なんかも2年弱の状況ですけれども、半分以上はクリアした状況になっております。5億以上のスタートアップにつきましてももうほぼほぼ目標の達成が見えてきておる状況になっております。外国人起業者数、スタートアップVISAについても同様でございます。万博については、万博を見据えたプロジェクトの企画でありますとか、支援体制、プロモーションがこれから各方面で進んでいくことになると思いますので、これからこちらのほうのスタートアップ50社を輩出するために、産学官でありますとか、大阪産業局も連携しながら輩出件数について目標達成するように頑張っていきたいなと思っております。ユニコーン輩出件数につきましても、こちらのほうもいろいろ環境整備を行ってうまくいけばいいかなというふうに感じております。

続きまして、下段は、大阪市のイノベーション促進事業の目標についてですけれども、新たなプロジェクトの創出支援件数とスタートアップにおける資金調達額というのを年間の目標にしております。これは、大阪市独自の目標になっておりますけれども、新たなプロジェクトにつきましても令和3年度から7年度までの5年間で400件というところで、1年目で80件ということでちょうど5分の1と考えれば、目標を今のところ達成できる見込みであるのかなと。併せて、スタートアップにおける資金調達額ですけれども、これは5年間で80億を目標に進めておりましたけれども1年目でもう既に83億円ということで、目標を達成したという状況になっておりまして、こちらの資金調達の目標につきまして、上方修正を行うように今進めておりますので、次年度以降はまた新たな目標につきまして御説明できるかと思っております。

成果ですけれども、11ページからは大阪市の行うプロジェクトの創出というところでどのような事業が出てきたか、拠点都市、グローバル拠点の中でどのようなスタートアップ、目立つようなところが例としてあったのか、というところで4社程度お示しさせていただいております。まず1社目がRehabilitation 3.0株式会社というところで、これはグローバル拠点にかかる支援メニューを活用された大阪の会社になります。サービス内容のほうは御覧いただけるとおり睡眠情報からAIが運動能力や認知能力などを評価するというようなシステムでございまして、これは医療・介護機関におきまして、現場の効率の向上を目指すのに役立つではないかというところで、海外アクセラレーションプログラムのほ

うに参加しております、O I Hでやっておりますシードアクセラレーションプログラムのほうにも参加されております。11ページの下段がプラクス株式会社、こちらは大学発スタートアップとして出てきたというところでお示しさせていただいております。医療用家系図というところで血縁者の病気など体の疾患情報というのを家系図に落とし込んで早期発見や早期治療を促し、医療現場の負担軽減をめざして会社を立ち上げたようでございます。こちらのほうは、うめきたピッチ、大阪イノベーションハブで行っておりますピッチに登壇などもさせていただいておりますし、アストラゼネカ社のヘルスケアのオープンプラットフォームにも参加するような支援もこちらのほうから行っております。

続きまして、12ページ、株式会社フツパー。こちらにつきましてはスタートアップ支援でソフト産業プラザTEQSという施設が南港にございます、そちらで5Gを使ったビジネスアイデアコンテストに登壇、そこでビジネスについて磨きをかけた上、大阪イノベーションハブで行っております、うめきたピッチへの登壇、それからまたATCで行っております実証事業への参加など、大阪市で行っている新事業をいろいろ活用をされまして、工場での目視検査の自動化、効率化、中小企業のDX化、DX促進というのを目指している会社でございます。最後、4つ目の会社ですけどもPIAZZA株式会社、いわゆる地域の困りごとであるとか情報交換であるとか、もののやり取りをオンライン広場というところで地域の繋がりを促進するSNS事業を展開されています。うめきたピッチのほうにも登壇で、サポートをさせていただきましたけども、大阪市、大阪メトロ、京阪、南海などとの連携をしておりますし、大阪以外の地域のほうでもいろいろこのアプリを活用した実証というか、事業を進めているようで、広がっているということで今回御説明させていただきました。

続きまして、13ページ、成果事例の紹介の中でパートナーの紹介でございます。エコシステム構築のためにスタートアップが成長していく中で、大企業・投資家にO I Hのパートナーとして登録していただきまして、協力をいただいているところでございます。その中で、今年度新たに登録されたパートナーというのをまず例として3件御紹介させていただきます。まずは、ライトアップベンチャーズという独立系のベンチャーキャピタルで、関西のスタートアップに注目いただいております、シード期を対象に投資を行っていただけたところです。続きまして、真ん中のだいしん総合研究所。これは大阪信用金庫、だいしんの支援ファンドを設立されたり、創業期の起業支援とか社会課題解決に取り組む企業支援を行っておるところでございます。一番右がコロンビア大使館通商部でコロンビア中南米のゲートウェイでありますコロンビアとイノベーションハブとのネットワークを構築し、いただきましたけども

オンラインでイベントを行っております。左から順番になるんですけど、VC、金融機関、それから海外展開というところでいろんなパートナーの協力を得れるようになりました。

後ほど説明をさせていただきますけども、資金調達環境の充実というのが大阪のエコシステムの課題の一つであるというふうに考えておりますので、こういう支援いただける機関というのが増えていくというのはいいことではないかなと考えております。海外大使館というところも連携を進めまして、大阪エコシステムの活性化につなげてまいりたいと思います。

続きまして、14ページ、産学官連携になります。産学官連携の取組につきましては、京阪神全体のものといたしましては、上段にあります関西イノベーションイニシアティブ（K S I I）、中段の京阪神スタートアップ・アカデミア・コアリション（K S A C）がございます。両者ともにイベントや起業家教育プログラムで相互に連携を進めております。中段のK S A Cにつきましては、昨年度文部科学省の大学発新産業創出プログラムに採択されまして、ただいま事業を令和3年度から進めております。京阪神の6府県につきましては、幹事自治体としてK S A Cに参加をしております、地域課題の解決に向けたワークショップ、人材育成などの取組を進めていく予定となっております。この大学関連、アカデミア・コアリションとはちょっと別のところになるんですけども、バイオ関連市場の拡大に向けて、国内外から人材投資を呼び込み、世界市場に進出するためのコミュニティであります、バイオコミュニティ関西（B i o c K）を下段のほうにお示させていただいております、B i o c Kが今年の4月に内閣府からグローバルバイオコミュニティとして認定されました。こちらにつきましても産学官のメンバーが参加しております、イノベーション促進、ネットワーク形成促進、国内外への情報発信の取組を進めております。

続きまして、15ページ、産学官連携につきまして、こちら前回の促進評議会のときに御説明させていただいた令和3年度の部分から件数等も変わりませんので、これは前回の御説明の内容となっております。創出支援補助金につきましては、開始から10年を越えまして令和3年度末までで99件、22の大学に交付をしております、15件が実用化済でございます。資料には掲載されておられませんけども、直近では大阪公立大学、大阪市立大学発のベンチャー企業の設立などもされたという成果も出ておるようです。補助金につきましては、事業化率が約16%というところでこの補助金をきっかけに新たな研究費の獲得につながるなど、大学シーズの事業化にも貢献ができておる事業でございます。

最終、振り返りではないですけども、前回の評議会でもいただいた御意見というのをこちらの16ページにまとめさせていただきます。ご意見を踏まえて、令和4年度の各事業に取組

んでおります。前回のとおりにいきますと、まずスタートアップの現状把握というのはきっちりするべき、データベース等できっちり充実を図るべきでないのかというところ。それから、人材のプラットフォーム構築や、ネットワーク化を進めていく経営人材の発掘、VCとのマッチングをしていくべきという御意見。それから海外政府系機関との交流については、在阪の起業意欲のある学生に対してメリットのあるプログラムをきっちりできるような政府の機関と連携すればいいんじゃないかという御意見。それから中小企業とのマッチング、大阪というのは中小企業が数多く存在しますので、スタートアップと組むことで何かできるんじゃないかということで御意見をいただいたものでございます。

令和3年度の事業の実施の報告及び、前回の評議会における御意見の集約について御説明させていただきました。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

○北岡委員長 御説明ありがとうございました。では、今から各委員から御意見や御質問がありましたらお受けしたいと思います。よろしく願いします。

では、山本委員からお願いします。

○山本委員 御説明ありがとうございます。そして、いろいろな活動が行われていることをとてまたのもしくというかすばらしいなと思って伺っておりました。数字で見る成果というところで、コンソーシアムの目標のこの数字はイノベーション、大阪市の目標と同じ令和7年度に向けた数字であるという理解で合っているでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） コンソーシアムの目標につきましては、2020年から2024年度まで、令和でいいましたら6年度、国の取組で令和6年度までが目標となっております。拠点都市に選ばれたところが全部令和6年度ゴールで目標を設定して国に計画を出しております。ですから上段のほうは令和6年度が目標です。下段のほうは大阪府が独自事業で進める上での目標で、こちらにつきましては令和3年度から令和7年度までの5年間の目標となっております。ただ、今のところは上段のコンソーシアムの目標、大阪府、それから大阪の経済界とか大学を含めて大阪全体でこの目標を達成していこうと頑張っております。大阪市も下段の目標が達成できたら大阪全体の目標の達成に貢献するというところで、この上段の目標目指してやっているところでございます。

以上です。

○山本委員 ありがとうございます。資金調達額も80億円というところで、既に達成ということですばらしいなと思っています。可能でしたら、どういうところで目標よりもすぐ短期うちに83億円が達成できたのかっていうのと、これからどのようにして増やして

いくようにお考えなのかというのを伺えればと思いますけどもいかがでしょうか。

○大阪産業局（中村部長）　大阪産業局の中村でございます。ありがとうございます。こちらのほうで計上しております資金調達額は基本的には公表されている情報を基に積み上げてはいるんですけども、やはり大きな金額を達成しているところっていうのはやはりシリーズBあたりのステージのスタートアップさんが多くて、過去に大阪イノベーションハブのOSAPのプログラムを受けられたスタートアップさんのフォローアップなどを通じた情報となっておりますので、ちょっとステージが上がってきてると考えております。これからどのように増やしていくっていうところでございますね、失礼いたしました。こちらのほうに取り込んでいく中身としましてはVCとのミートアップの場を設け、少しクローズドで確実に調達のお話ができるような場づくりを今後していきたいなと思っております。

やはり、スタートアップご自身でもVCとお会いになられると思うんですけども、より密に会えるような場づくりを大阪イノベーションハブのほうで行っていければというふうに考えております。お答えになっているでしょうか。大丈夫でしょうか。

○山本委員　大丈夫です。ありがとうございます。ユニコーンの目標も3社というところで多分これからそれを達成するにはすごく大型な資金調達っていうのが入ってくるんだろうなと思うので、数値目標とかも今後はもうちょっと大きくてもいいのかなと思ったりもしました。ありがとうございます。

○北岡委員長　ありがとうございます。今、山本委員おっしゃったように僕もこの場で聞くのがいいのか分かんないですけど、ユニコーン3社をもし目指すのであれば、調達額が1000億となるんでこの矛盾をどう解説するかという中で、方法として結構各地方のユニコーンが、東京に吸収されていってるっていう事例も実はあるんですよ。そういった意味においては本当はユニコーンみたいなものを関西に誘致するっていうのも一つの考えだろうし、逆に関西から巣立ったユニコーンをどうカウントしていくのかとかテクニカルな部分も考えていかないと大阪だけの関西だけの数値を見てもあまり意味がないかなっていう気もします。山本委員のおっしゃるように83億の調達ではユニコーンは1社もできないので、その辺もう少し戦略的に考えていくっていうのは必要かなって私も思いましたので、よろしく願いいたします。岡委員いかがでしょうか。

○岡委員　ありがとうございます。僕も今東京、大阪あと札幌、福岡、沖縄といろんなところでスタートアップ支援をしております、行政の方とも、いろいろお話ししますが、正直大阪、関西のスタートアップの支援っていうのが飛び抜けてて手厚くされてるなってい

う印象があります。これも大阪市、今回のイノベーション評議会の話にもありましたけど、かなり取組が充実してますので、その現れかなと感じてます。悪い言い方すると、ちょっと過保護すぎる感じなわけじゃないんですけども、今の御時世なんでそれくらいしてやっとスタートアップの母数、起業する起業家が増えるのかなとも思っています。それなりにスタートアップを増やすには、大学発ベンチャーっていうのが特に関西では大きな規模というのか領域になっておりますので、そこに対するいろいろな支援はこれまで以上にいただけたらなと思います。またKSACのことなんかも人的なOBっていうのかな、やっぱり人、人、人なんでそこをどういうふうに確保していくか、特にシードですねシード・アーリーはともなく人材不足してますんでね、その辺、力を入れていければなと思いますし、また先ほどちらっと話ありましたが大学からの起業についてもやはり学生ベンチャーとしては非常にいい、モチベーション上がりますし、有意義なものになると思いますんで、金額の大小にかかわらず、ぜひそういったこともしていただきたいなと思います。HackOsakaについても800人参加したということでこれはもうすばらしいことですし、グローバルなスタートアップが関西からっていうことを期待させるような数字かなと思いました。ユニコーンにつきましては、今回0社とありますが、これはマーケットも崩壊しちゃいましたんでね、なかなかすぐには出しにくいっていう外的な要因もあると思うんですけど、こういった取組を続けることによって将来必ず大谷選手とか松山選手らのように世界トップクラスのスターが生まれるのは期待はできるかなと思います。83億円を調達したっていうことですけども、中身を知りたいんですけど、何となく全体の1~2割のスタートアップが全体の8割の金額を調達したようなことがよくある話ですが、今回一番を調達したスタートアップの名前と金額って教えてもらうことってできるんでしょうか。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理） すいません。また後ほどなんですけども、まとめた資料を送付させていただくことでよろしいでしょうか。

○岡委員 分かりました。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理） ありがとうございます。

○岡委員 その辺の資金調達については今シード・アーリーはなかなか厳しいと言われてましたけど、ここのところマーケットが崩壊したことでミドル、レイターの資金調達もかなり厳しくなっていますので、その中で関西のところだけ調達できていけるっていうのは逆にあれっていうところがあるんで、ぜひその辺も教えてほしいなと思っていました。

私からは以上です。

○北岡委員長　　はい、多分私の記憶で言うと、例えば創薬ベンチャーで阪大発ベンチャーでルクサナバイオも去年13億くらい調達してるんで、だから京大発ベンチャーとか神戸大学発ベンチャーでそれだけで多分、岡委員がおっしゃるように半分以上調達できているんじゃないかなという気がするんですけどね、それがちょっとずつマーケットの崩壊によって、厳しくはなっているんですけど、実際創薬ベンチャーに関しては結構10億以上の単位の調達って今年も動いているように思いますんで、ディープテックに関してはそれなりに調達ができているのかなという気はしますね。

○岡委員　　よく分かりました。ありがとうございます。

○北岡委員長　　フォーリー委員お願いします。

○フォーリー委員　　ほかの委員の方々もおっしゃってたんですけど、基盤というんですかね、スタートアップの育成をしていったりですとかそういったところの基盤が非常に整備されてきたのかなっていう印象があります。あとは受け手側のスタートアップしても、情報のほうが少し前はどこに聞いたらいいか分からないというよりも選択が多過ぎてというところがあった。例えば自分はOSAP出身だとか、KSAC出身だとかそういうふうなことから、スタートアップの人たちと話をしても普通のように出てくることによろくなってきたのかなっていうのは、さっき岡さんおっしゃってたんですけど、めちゃくちゃ京阪神圏は手厚いというところはありますよね。

それともう少しコメントさせていただく前に御質問をしたいんですけど、万博を契機にというところが一つの目標数字の中に入れておきまして、実は万博にかみたいとか万博にどういふふうにしてかんだらいいか分からないっていうそういう人たちが非常に多いんですね。その中の目標として、契機にするというところはどういう意味合いをして万博を契機にするってということなのかをちょっと教えていただけないかというところと、あとは京阪神として万博のどういった組織とコラボレーションまたは連携をして、こういったスタートアップの動きを整備されようとしているのかっていうところをちょっと教えていただけないでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）

今フォーリー委員の御質問にありましたけど、万博を契機にというところで、大阪市が今年度からやっておりますカーボンニュートラル関係の事業がございます。今まさに関係先といろいろ話をしているんですけども、とりあえず現時点での我々の理解は万博に出展されるパビリオンなどで出展なり実証実験、新しいビジネスを持って行って出展なり実証実験な

りする、そんな捉え方で今のところはやっております。

それから、どういうふうにかんだけいいのかわからないというところですが、万博の会場内で実証実験や、出展をやる場を探すことをやっているところでして、模索状態で今いろいろやっているところです。

○フォーリー委員　ありがとうございます。万博もいろいろなことが決ってしまった後で、なかなか実証実験っていうのは入り込みにくいのかなと思っていて、ちょうど今ぐらいからぜひ、いろいろな大阪のスタートアップ、京阪神のスタートアップが実証実験とかで参加をできるような形が作ればというふうに思いますので、また引き続き情報があれば、ぜひ共有していただければというふうに思います。

最後のコメントとしましては、調達する金額も80億という目標を越えたり、非常に幸先がいいもののやっぱり今の国際的な政治経済環境の中での日本というところとやっぱりなかなかコロナ禍から立ち上がらなくて、為替もこれだけ円安になっているという状況を考えたり、マーケットのクラッシュということを考えたときにこれからこそスタートアップの至難のときが来るんじゃないかなと心配しております。そのときに負担はできたものの実際最初の第1期のシード調達できた、ただその次で、このエコシステム自体をお金の流れで考えたときに、どういうふうに回していけるのかなというのも今後考えるところなんだろうなと。やはり、今ベンチャーキャピタルとかが日本の上昇があまり面白くないという、リターンが少ないというところで、例えば投資で引き揚げたりとか、あと日本のスタートアップにしても海外ベンチャーキャピタルから調達したほうが早いじゃないかとか、ちょっとやっぱりいろいろな話が出てきている中で、こういったせつかく京阪神にプラットフォームを作っていくこちらをどういうふうにして今、経済環境の展開に合わせて我々自身、またはエコシステム自身の変化をさせていけるのかっていうところがちょっと考えていく課題になるのかなっていうふうに思いましたので、コメントとしてお話をさせていただきました。

○北岡委員長　ありがとうございます。まさに、今日の日経新聞に載ってましたけど、やっぱりスタートアップの環境が相当厳しくなっていくっていうので、VCからの資金調達もできないし、ということは投資もできなくなるっていうので、その状況でこの地域がどういうふうにそういうのを支えていくのかという正念場が多分この一連にあるのかなっていうふうに思いますので、今の委員のコメントに対してもちょっとうまく回していただければというふうに思います。

私からはここに前回の評議会の意見の中で、やっぱりすごく感じるのは今回の万博でもフ

オーリーさんも理事になられてますけど、いろんな委員の方に聞くと若者っていうのが結構キーワードにはなっていると思うんですね。その中でやっぱり若い学生さんとかが意外と関西の地を離れて、東京とか世界で活躍をしようというふうに動いていると。これは非常にいいことなんですけど、一方でそういう人たちがこの関西でも頑張っていこうというような土壌がもう少し作っていかないといけないかなっていうので、私もコロナ禍で渋谷とかいろいろ回る機会も増えてきているんですけど、何となくやっぱり渋谷とかって学生さんが元気な感じがするんですよね、以前から言うように関西って山のへりに大学が結構集まっていて、都心部に若者が平日に集まる場がなくて、週末買い物では来るんだらうけども日夜議論とか集まってなになにする場っていうのがなかなかなくて、関東はやっぱりそういう場ができた、名古屋も一部名古屋市の駅前にそういうものを作ったり、福岡市も結構そういうものを作ったりして、若者が集まっているっていうのが結構特徴かなと思います。

で、先行で動いているのがこの間NTT西日本の京橋のところに行ったら、今あそこ結構5千人くらい登録者がいて、結構若い起業家が集まりつつあるっていう話があるんですね、そういう意味ではうめきたピッチにもすごく期待がかかっているところなんですけど、やっぱり万博とかそうそういうことを機に若い人たちが集まるような施策っていうのは進めていくべきかなっていうふうに思いますので、その辺もまた検討いただければというふうに思いました。あと何か言い忘れとかコメントございますでしょうか。全体を通じてまた後ほど聞かせていただきたいと思いますので、一つ目の議事につきましては、これでまずは一回締めたいと思います。

では、2つ目の議事のほうに入りたいと思います。では、前回評議会における意見を踏まえた令和4年度以降の取組についてということで、事務局のほうから説明いただきたいと思っています。よろしくをお願いします。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理）　それでは、引き続きまして、議題（2）の説明をさせていただきます。

令和4年度以降の主な取組についてというところで、まず18ページ、大阪の今、現状はこういうところにあるというところをこちらのほうで現状課題等、抽出いたしまして、これから説明させていただきます課題の克服につきましてどのような事業、大阪市、京阪神の大阪府市なりコンソーシアムとしてどのように進めていくのかを御説明をさせていただきます。前回、委員の皆様からいただいた御意見でありますとか、大阪産業局・大阪イノベーションハブのほうでもスタートアップに係る意見のアンケートの中身の調整もさせていただきますし

たジェトロの京阪神スタートアップ調査のアンケート調査報告書を踏まえまして大阪のスタートアップ支援の現状、それから課題につきまして、18ページ左側、現状・課題というところで整理をしております。まず、現状・課題で資金調達面ではこの間資金のところスタートアップの目標達成できたというところはありませんけれども、プレシード、シードを対象とする部分のVCやエンジェル投資家が不足しているのではないかという現状でありますとか、あとは先ほど岡先生もおっしゃられておりましたけれども、専門人材・経営人材というのが不足しております。特に大学の研究成果から大学スタートアップになるべきところの経営人材の不足。それから、海外展開が課題というところでジェトロのほうのアンケートのほうにいきますと、大阪の企業は海外事業を展開中または海外展開計画が有りという比率が京阪神の中で低かったというので、これはサービス系企業が多いのが原因であるのかなというところで海外事業に関わりたいかという希望でいうと約8割のほうに関わりたいということで希望は持たれていると分かってきました。

それから海外展開に係る課題といたしましては、人の問題ですね、海外事業をできる人材がいない、人材を雇う資金がないというものです。また、海外対応の開発の改善であるとかいうところも出てきております。あとは情報ですね、必要な海外の情報であるのが分からないという課題が出てきておりました。

あとは情報発信というところで、大阪・関西のポテンシャルについて国内外に向けた効果的な情報発信ができていないのではないかと。このジェトロのアンケートを見ますと、エコシステムの存在・内容を知らない、事業について活用しています、認知していますという回答が約3割しかなかったと認知活用度はすごく少なかったんですけど、活用されてる方はすごく満足しているという方が65%から82%を占めております。支援を受けた利用者の方は一つに活用して、また二つ目、三つ目と支援をいろいろ活用し、資金調達に成功している例もありまして、満足いただいているという状況になっております。

この現状・課題を踏まえまして、右側の課題の克服というところで、令和4年度以降これからの取組で方向性や事業を記載させていただいております。細かい話は後ほど順番に説明をしていきますけれども、まずは資金調達なり、専門人材という課題を解決していくところで起動という事業を本年度から産業局が中心となって京阪神、大学連携して始めようとしております。関西のリソースを結集して大学の将来有望なシード期のスタートアップを資金面も含めまして、成長、ハンズオン支援していくという事業でございます。

それから専門人材の部分でいきますと、大学から生まれた研究成果と起業を目指す人との

マッチングプラットフォームでECP-KANSAIというのも今できてございます。海外展開の部分でいきますと、国のほうのアクセラレーションプログラムというのも今、募集が終わって、これから事業者が決まっていきますけれども、そういうところに参加を促していくような仕組みというのも、今やっております。アクセラレーションプログラムに参加する企業様への支援を行うフォローアップ人材というのは、大阪産業局のほうで確保してございますので、引き続きこれは事業推進、海外展開等を支援を行っていくものでございます。また情報発信のところでは、Startup Genomeというところで、本格的に大阪として情報発信していこうと進めております。また今、現在やっておりますけども、スタートアップ・エコシステムというものの全体のブランディングというのをStartup Genomeの参画と合わせて大阪の魅力とか情報発信についても行っていくということで進めております。

個別の今御説明させていただいた今後の課題解決に向けた方策につきまして、細かく説明したのが19ページ以降でございます。まずは、令和4年度の取組の一つとして、起動の事業を進めていくところがございます。関西からグローバルに活躍するスタートアップを創出するためシード期の有力な候補に徹底したハンズオン支援を行います。京都大学様、大阪大学様など関西圏の大学と連携しまして、参加企業の様々な協力の下、事業資金、キャピタリスト等、専門家によるハンズオンなりが無償で提供されるというものでございまして、募集開始が10月、近々に募集を進める予定にしております。これが学生、大学、シードなりの支援創出というところの事業でございます。

続きまして、20ページECP-KANSAIですね。大学発の技術を活用しましたスタートアップと、起業に関心があるけどもシーズがないという起業家とのマッチングプラットフォームっていうのを新たに創設がされております。これが人材育成の部分で、マッチング、経営人材のところでの解決になるかなというところでECP-KANSAIという事業を始めております。

続きまして、21ページの広報充実の部分でStartup Genome、大手のStartup Genomeのほうに今年度から本格的に大阪の情報を発信するようにしております。現在、ランキングでいきますと、全世界の中で、まだ東京の15位が一番上の状況です。それから東京が世界で15位、アジアの中でいっても東京がまだ3位というところで、まだ大阪はトップ50にはまだ出てきておる状態ではないんですけども、今述べた起動でありますとかECPとか今まで大阪市で行っているイノベーション支援の事業などの実績をGen

omeのほうでも情報を出して、2024年度ぐらいにはこのエコシステムのランキングに載るようになればいいなということで事業を進めていきたいと思っております。

それから、これはフォーリー委員のほうのお話の万博というところにかかってくるんですけども、令和4年度の取組というところで、大阪市の事業といたしまして、カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業というのを今年度から開始しております。カーボンニュートラル分野を中心に大学等の新技術の発掘を行いまして、ビジネス化支援を行う、そして万博での出展や実証実験で活躍するスタートアップ、目標は10社なんですけども、10社輩出することを目標に事業を進めております。今、現在は万博の出展企業のほうに調査をかけておりまして、その出展企業と大学であるとか研究機関であるとか、技術シーズとのマッチングを進めていくということでしております。目標は令和7年度に万博における出展・実証、実験等を行うという事業でございます。

本市、令和4年度の取組につきまして、説明は以上となります。ありがとうございました。よろしく申し上げます。

○北岡委員長　ありがとうございました。では、委員のほうから御意見、御感想、御質問をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。じゃあ、山本委員から申し上げます。

○山本委員　また私からお願いいたします。

いろいろすばらしいなと思って私は海外におりまして、日本からの自治体さんからPRであるとか情報発信っていうのがいろんなところから伝わってくるんですけど、その中でもLinkdinをすごく活用されていて、どんなことがあるのかなというのがどちらかっていうとフォローしておれば見やすい形になっているなというふうに思っております。どんどん活躍の行動を広げていただければ、だんだん伝わってくるのかなと思って見てます。一方で、出てくる情報が今度こういうイベントがあります、これがありますので参加してくださいという感じで、どちらかというアプリケーションが今から始まりますというようなことで、こっちにいと日本を知っている人はいても、経済状況がどこまでどうなのかとかそれがスタートアップ・エコシステムになるとどうなのかっていうところもあって、ほんとは見えてないというところがあるので、そこにアプライしようにもあまり分からないので、こういうプログラムがありますから応募してくださいという情報は、世界中のいろいろなエコシステムがみんな競って発信している中で、なぜ大阪というところと、大阪っていうものがもうちょっと見える化されるような発信も増やしていかれるとよいのではないかなと思って日々見ております。

最後のカーボンニュートラル等ビジネス創出支援事業というところで、私今欧州のドイツにいるんですけども、カーボンニュートラルは社会課題として、取り組まなくてはならない、社会課題だけではなくて、やらないと罰金があるような世界がすぐ目の前に待っている、こちらだと皆がどうやってそれを達成するかっていうところで、すごく技術的にもビジネスモデル的にも、いろいろ試行錯誤が日々行われていて、大企業からスタートアップからっていう、うまく自分たちでできるところは自分たちで、できないところはどこかそこを補填をしてくれるような企業やサービスはないのかっていうところ、みんなすごくいろいろ日々切磋琢磨して目を光らせてやっているところなので、カーボンニュートラルのこういった取組とかも、日本はどうしているかとか日本に技術力があるんじゃないかというところでみんな多分興味はすごく持ってくれるというか、場所だと思うので長い目でこういったドイツですとかそういった進んでいるようなところと海外展開というところを狙い撃ちする感じで、いろいろワークショップをしたり、意見交換をしたり、どのようにしてそういったところを達成しようとしているのかっていうワークショップやシンポジウムをしながら大阪のそういったところに取り組んでいる大企業さんに対して海外のスタートアップを当てたり、また逆に大阪のスタートアップが海外の企業の課題解決ができるような技術を伸ばしていったりすることができるんじゃないかなと思って、ここはすごくいろんな機会がありそうだなと思ってよい施策だなと思って伺いました。以上です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）

今山本委員からいただきました大阪のエコシステムの状況の見える化でございますけれども、昨年度この評議会開催しましたときにも各委員からそういうお話を承っております。ただいまの説明の中でジェトロの実施しましたアンケートの結果、18ページでも少し書いておりますけれども、海外展開のところ、ジェトロと少し調整もさせていただきまして、アンケートの中で大阪、京阪神のエコシステムの状況も把握できるようにアンケートやっただきました。そのデータも公表されています。それから大阪イノベーションハブでもGenomeのところ、ホームページの充実ということでお話ししましたが、情報発信に非常に力を入れてやっというところで取り組んでおります。大阪のエコシステムの情報、状況につきましてもアンケート結果などをもとに発信していきたいと思っております。今年度中には実施したいと思っておりますので、御覧いただければ幸いです。

それから、カーボンニュートラルのビジネスの件で、先ほどの説明でカーボンについて研究されている大学の技術とか今発掘していろいろ集めているところとお話申し上げましたが、

その中で研究者の方々とかと調整しまして、出せるものはどんどん発信できればと思っております。そういうものがある程度集まってまいりましたら、新たなマッチングなりに取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○北岡委員長　ありがとうございます。今、非常にいい指摘2点いただけたのかなというふうに私も思っていて、実は福岡市というか九州で一昨年起業家人材の公募っていうのを進められたら、700人ぐらい集まったと言われてます。その中から選抜を300人ぐらいして、実際にC X O人材に適する人が数十名ぐらいおられたという、一応、情報としては僕ら持ってるんですけど、なぜ、それ700名集まるかというのが今分析をかけようと、うちもしてまして、仮説としては誰かメッセージを、SNSで拡散させる力が、持った人が何人かいたんじゃないかなというふうに思っております、僕の仮説としては一人は高島市長かなっていうふうに思ったりしてるんですね。やっぱり、ドイツに発信するっていうのもあるルートから伝わってるんですけど、今の時代ある程度拡散できる人たちがいないとそういう大阪に対してこういうことをしてるよと言っても、なかなか伝わらないっていうのが現状なのかっていうのが思っているんで、ちょっとそういうどのように情報を拡散させていくのかというのについてもちょっと真面目に分析していく必要があるかなというふうに思っています。

もう一つは先ほど山本委員のおっしゃったようにドイツって規制緩和というか、むしろ規制強化というかそういうことをするが故に新しいイノベーションの技術を搭載しているというような仕組みだと思うんですね。そのときによく日本でカーボンニュートラルってすごいキーワードの中で、これに関係する研究技術を集めましょうみたいなことをよく言われるんですけど、具体的に何をどう解決するのかっていう目標がないので、結局研究実証で終わってしまうのがよくありがちなのかなと思うので、やっぱりこういうことをやるにおいても関西がどういうことを目指すのかっていういわゆるメッセージ性っていうのが明確じゃないと、結局は研究開発資金で終わってしまうというのがよくありがちなので、その辺ドイツなんか参考になるのかなというので、山本委員に何かもっといろいろ現状を聞いて進めていけたらいいのかなというふうに私思った次第です。

では、岡委員お願いします。

○岡委員　ありがとうございます。

今後の取組についていろいろ聞かせていただきましてありがとうございます。この中で僕

が一番興味があるのが3番目のStartup Genomeですね。これが東京が15位というのは、ちょっとバズって僕も記事を読んだんですけども、大阪については記事、確かなかったような気がしたんで、ないのかなというのもあるんですが、僕自身ほかの地域と比べて大阪っていうのは、中小企業とはマッチングが少ない気がしてましてね。東京とか福岡結構、大企業との取組、スタートアップの協業とか共創とか言いますが、それやってるような気がしています。

また、大阪の場合はその辺を強化すればもっともっとM&Aとかあと大企業との連携、大企業本体からの出資とかそういったことがEXITになると思うんですけど、それが起こるのかなと思ってまして、それを促進するにはどうしたらいいかなっていうのを考えたところ、スタートアップと大企業の付き合い方をもう一度大企業側、中小企業側に理解、勉強していただいて、それでその先行事例とかロールモデルを事例として発表するような場、今度の9月の28日関西経済同友会と我々協会が共催でイベントするんですけども確かに何するかというと過去、大企業とスタートアップで成功したスタートアップの経営者とその大企業側の担当者に出てきてもらって、そこで成功するまでどんなハード支援をするだったとか、どんな問題が起こってそれをお互いどうクリアしたのか、ちょっと生々しい話をしてもらって、それを大企業、中小企業の方に聞いていただいて、それやったらうちでもできそうやなとかうち今ちょうどそれ問題でどうしてリカバリーしていいか分からんっていうようなのはそういうやり方があったのか、そういった勉強会みたいなことをやります。ですから、そういったビジネスマッチングにつながる勉強会みたいなのが今後大阪市、大阪府のいろいろなカリキュラムで入れられたらますます活躍するんじゃないかなと思いました。

僕からは以上です。

○北岡委員長　ありがとうございます。

私もその辺、岡さんと常に意見交換させてもらって、僕も大企業の社長さんとかいろいろ話していると、最近M&Aの先行をしている企業さんのところに各会社がヒアリングに行ってるという実態がすごく見えてきてまして、そういうところっていうのは阪大でも京大でも実はM&Aがかなり促進されつつあって、そういう企業がコロナ禍だからか分かんないですけど、急激に今増えているなっていう感じています。で、正直東京のIPOって結構情報系とかサービス系が結構多いなっていうことなんですけど、一方関西ではディープテック系が結構あるっていうのがいろいろ分析の中で出てきてるときにIPOの東京、M&Aの大阪みたいなそういう差別化ってなんかできるのかなっていう気もするんですよね、やっぱり東京

の人たちがまだ大阪のディープテックを知らないんで、今度もSMB Cさんが東京に関西のディープテック10数社を連れていくってふうにお話されたりとか、去年もされましたし、結果的にそういうふうにしていって大阪っていうのはディープテックっていうの中から、逆に言うとあんまりバリュー上げちゃうと買えないんで、結構数十億のところまでパーンと買っていただくというのも結構あると思うんですけど、それが実は岡さん御指摘のように関西なり、中部そういうところもできると思うんですけど、そういう意味では企画されているようにイベントっていうので、企業の経営者にもそういうことを学んでいただきスタートアップのほうも御作法を学んでいただくっていうのは関西らしさっていうのは出てくるかもしれないなって今改めて思ったので、非常にいい御提案をいただけたのかなって思いますね。

○岡委員 ぜひぜひ9月28日お時間ありましたらどうぞ御参加ください。

○北岡委員長 ドイツなんかもそうですよね。隠れたエンジェルって一時期10年くらい前に結構隠れたエンジェル、2000社っていうレポートであがってきたときにやっぱり中堅企業、中小企業、ベンチャーと大企業の関係性っていうのが実はドイツですごく密になってるっていうのも事例があったのでそういうところでユニコーン3社って目標掲げちゃったんで、仕方がないんですけど、違う大阪の出口っていうのが改めて今感じました。

○岡委員 スモールM&Aも立派なEXITですし、お互いのコミュニケーションのスキルが低いとまとまる話もまとまらんし、リテラシーが低いと話が通じ合わないんで、この辺の最低限のマナーとかルールみたいなそういったものも明文化してやっていけば成約率は高くなるような気がしますけどもね。

○北岡委員長 はい、ありがとうございます。

フォーリー委員お願いします。

○フォーリー委員 令和4年にいろいろ取組されることについては、引き続きいろいろされていくんだなっていう印象を持ったんですけど、私も岡さんと一緒にStartup Genomeの話ちょっと面白いなと思ったんですけど、その中でStartup Genomeをせっかくここに載せていくっていうようなことを今後も続けていくのであれば、このエコシステムの目標数値の捉え方というのをStartup Genomeが採点していく、こういったこといろんな基軸っていうのがあると思うんですけど、そこのところも少し頭の中に入れながらやるのも一つかなとかとは思ってるんですけど、例えば簡単に言うと、ユニコーン三つっていうのは非常にすばらしいんですけど、Startup Genomeのホームページを見ると、例えば全体のエコシステムをダラーベースで例えば、統計学として出し

ていたりですとか、そういったただ単に数だけではなくて、エコシステムのバリュー全体をどういうふうにして上げていくんだっていう観点からしていくと、もしかすると今は数を輩出していこうっていうところを中心にやっているんですけど、ユニコーンだけじゃなくて平均的なスタートアップのバリューをどういうふうにして上げていくんだっていうところでももしかすると今、イノベーション、今こちらのところでやられているエコシステムへの取組の内容とかが少し変わっていくところもあるのかなっていうふうに思いました。あとは、さっきの議論に出ていたとこでブランディングにも関わるところなんですけど、どういう分野を集中分野として取り上げていくっていうのを大阪でやるのか、具体的に言うと、大阪はディープテックとAI&ロボティクスここもスタートアップを中心にもう育てていくので、京阪神のスタートアップっていうのは、そこがすごい強い、ブランディングするのどっちかという、今は幅広にどのようなスタートアップの業種であっても作ってくっていう方針だと思っています。よく教育の問題でも公立で幅広く作っていくのか、イスラエルみたいにエリートで上げていくのかという二つの取組っていうのはあると思うんですけど、これってブランディングに考え方として非常に関わってくるのかなっていうふうに思ってます。

あとはAIとロボティクスっていうのは、世界の中でも今外せない内容となっているので、ちょっとそこのところで京阪神がAIスタートアップっていうやっぱり今東京が多いので、せつかく京都もAI強いですし、大阪もAIのそういったグループがありますし、あと滋賀大学とかも、実はAIって結構強いのでそういったところをどういうふうにしてブランディングというか、取組の中に取り入れていくのかっていうのはちょっと考えてもいいのかなっていうふうに思いました。

あと、海外のお話がよく出てて、海外の話のときに人がいない、海外事業できる人材がないというようなアンケート結果が出ているって言ってたんですけど、これさっき大阪って結構甘やかされてるんじゃないかって話がありましたけど、そんなの自分で行って調べろよっていうことで、それするのがスタートアップの経営者だろって一つはちょっと思ってしまったというのがあるので、もしかしたら今、スタートアップをしてからの我々アクセラレーションプログラムの話をしてるんですけど、その前の起業家教育の時点でやっぱり起業家ってどういうふうなものだとか、そこに国際人材育成プログラムを入れるとかそういったところにまで発展したほうが、もしかしたらニワトリと卵ですけど、早いのかなってちょっと思いました。

以上です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）

今、フォーリー委員からいただきましたエコシステムの目標数値の捉え方ですけども、先ほど前段で、コンソーシアムの目標を説明さし上げたところです。これは拠点の取組で国から目標として例示があった項目でこうなっており、未来永劫のものではないです。もちろん、大阪のスタートアップのバリューとかがどう映るのかも考えるのも大事だと思っております。先ほどジェトロのアンケートも活用しまして大阪の情報発信とお答えしましたけれども、その中でエコシステムがどういうふうに特に海外に映るのかっていうことを考えまして、情報発信をやっていきたいと思っております。

それから、2点目のブランディングの話になるんですけども、まず今大阪市がスタートアップ支援に取り組んでいる考え方ですが、まず一つは先ほどから皆様にいろいろ御議論いただいておりますように、やっぱりこの大阪のエコシステムの価値をもっと上げていく、そういうスタートアップを生み出すこと。関係機関に御指摘いただいておりますようにディープテック系だと思います。バイオとかAIとかロボティクスとかの分野からほんとに世界で活躍するようなどころが出ることを望んでおります。それをやっていくために拠点都市の取組なり活用して、そうしたスタートアップ誕生を目指すことが一つ大きなところでございます。

それからもう一つ、議会からも求められていることですけども、やっぱり起業をもっと増やして社会活性化させていくことも必要じゃないかと言われておりまして、それはこれまでもいろいろありますようなスタートアップを増やしていくことだと思うんですけども、やっぱり皆がもっと新しいことにチャレンジしていく、取り組んでいくことも我々公共の立場として大事な施策でございます。これはOIHできましてから10年ぐらい取り組んできたようなスタートアップ支援とか起業家育成ですけど、それも進めていくのが重要なことだと思っております。

そういうことで、ブランディングも含めまして、我々二つ大きな柱で取り組んでおりまして、海外にも通じる起業家育成の人材について御指摘いただきましたけれども、今後の取組の中でそういう点も考えまして、少しでも大阪のエコシステムがトータルでよくなるようにやっていけたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○北岡委員長　ありがとうございます。

昨日ちょっとジェトロの所長と話してたんですけど、やっぱり今フォーリー委員がおっしゃったようになかなか大学教育だけでとんがったグローバル人材ってなかなか育成できない

なっているのは、これ大学としてもすごく問題であるとは思いますが、一方でそういう人たちが結構意外と東京に勝手に出ていったりして、ほんとに個人で活躍している学生っていろいろいると思うんですよね、なかなかそういう子たちを僕らもなんとか支援してあげたいなっていうところもあるんですけど、やっぱり何となくアクセラレーションプログラムとかいろんな国のイノベーション人材育成プログラムっていうのは、よくありがちなのは、そのプログラムに参加したことを大企業のエントリーシートに書いてそのまま就職していくっていうのが結構よくあって、今回もここだけ公開されてるからあんまり言えないですけど、単に、大学の成果としてやるのではなくて、やっぱりその個人自身が世界で戦いたいと思うような子たちをこの大阪からアジアなり世界に後押しするようなことも進めていっていいのかなっていう気はしていて、何となくプログラムで終わってしまうっていうのが今日本で起きていることなのかなっていうので、昨日もちよっと意見交換する中で私自身も反省したところもあるので、おっしゃるようにフォーリー委員の言うように自ら課題があったら、それをぶち破るように自分が動けるようにしないと相談する人って作らなくてもいいのかなって気がするので、その辺も人材育成のところで考え直すべきことかなと改めて今感じた次第です。

一通り3名の委員からコメントいただきました。今議題(2)のことも含めて議題(1)のことも含めて全体通じて言い忘れたとかこの辺もうちよっと改善したほうがいいんじゃないとか、こういうところ施策に反映したほうがいいよっていうのありましたら議題(1)、(2)の議事を通じていただければと思いますけど。

○岡委員 岡ですけどいいですかね。

○北岡委員長 はい、お願いします。

○岡委員 今ちよっと先生の話聞きながらスマホいじりながらStartup Genomeをちよっと調べたんですけども、Startup Genomeの評価基準っていうのが六つありまして、そのうち二つがすごく気になったんですけども、一つがエコシステムの中でのコミュニケーション、つながり度が一つの基準で、二つ目気になったのがコミュニティの中でのEXITの経験度、恐らく何社がIPOとか、M&Aしたかっていうことかもしれませんが、この二つが評価基準の中、六つのうちの二つを占めるということなんで、この二つを網羅するのはさっきのマッチングのコミュニケーションスキルですよ、スタートアップと大企業、中小企業とのコミュニケーションの取り方とかそういったところがすごく大事じゃないかなというのを改めて今、気づきましたんで、共有したいと思います。

以上です。

○北岡委員長　　そういう意味では単にEXITっていうのはIPOではなくて、例えばGAF Aがベンチャーを買収しにいったらっていうのがすごく大きくて、大阪がIPOだけを指すと、東京に吸い取られていくところが絶対あって、だからそういう意味ではやっぱり今、岡さんがおっしゃった大企業とスタートアップの連携から事業提携にするっていうのも一つの施策ではあるというふうに今、改めて感じましたね。

○岡委員　　リアリティーがありますよね、そのほうが。

○北岡委員長　　山本委員どうですか、最後。

○山本委員　　ありがとうございます。今ちょうどそのポイントで同じように考えていて、先ほどIPOの東京、M&Aの関西じゃないですけど、やはりこっちで見ていると中小企業も事業規模的に見るとスタートアップとかからすれば十分大きい企業であったり、中小企業からしてみるとスタートアップの新しい技術を使うところに今度自分たちの市場の伸びしろが見えたりとかすごくたくさんあるので、大企業だけに絞らないでほんとに中小企業と一緒に大きくなっていくっていうのは、ものすごくよい戦略だと思うので、逆にそこは、まだあまりアクティベートされていないのかっていうところ学びつつであればすごく伸びしろも物すごく大きくなっていうふうに思いながら伺っていました。

でもそこで、ディープテックとかロボティクスというところおっしゃっていたんですけど、ドイツにいますとドイツも日本と産業構造が似てたりするところも大きいものですからAIとかそういったところ、サイバーセキュリティも含めて、皆すごく強かったりするのと同時にそれで日本との連携はできないのかっていうような話もあったりするので、逆にそこをブランディング化であったり、そこが強いのであれば海外との連携といういうのも意外にしやすいのではないのかなというふうにすごく希望が見えてきたと思いました。それを呼び込むときのまずドイツのベルリンの参考例ですと、ベルリンにアイナムといってアドバンストマテリアルというんですけど、ハードウェアでマテリアルそのものじゃないものだったら何でもやってるようなところがあって、彼らはディープテックで製造業も使えたりするような素材であったりするところに関わるスタートアップをどんどんインキュベートしていて、彼らはそこに注目しているが故に、そこにしか逆にニッチで注目していないんですけど、そこしかそういうのやっているところがないので、ヨーロッパ中のディープテックがそこにやってきて、ディープテックでそういう領域を探している企業も全部そこに来てという感じでそこがほんとにハブになっているというのがあるので、大阪のスタートアップのブランディ

ングの仕方と集積の仕方というのを考えると、ディープテック、今おっしゃっていたところが一番強くなりそうであればそこにフォーカスした日本海外を問わずのプログラムみたいなものを作って継続してみてもいいのかなと思ったりもしました。

○北岡委員長 国も元々10年ぐらい前にドイツのフラウンホーファーの仕組みをかなりの省庁が分析したときに、そのときに隠れたエンジェルとか、いわゆる国の公的資金の流れとかっていうのを全部分析されていて、おっしゃるとおり大企業がM&Aをしやすいような資金の流れってというのがドイツにはあって、日本の場合は何となくそれが国プロとかで終わってしまってる場所があって、M&Aを促進するような資金の流れってというのはなかなかないのかなって感じがするので、おっしゃるとおりドイツの仕組みって非常に日本と似てるところもあるので、なんかこう大阪府・大阪市でできるかどうかは別ですけど、なんか中小企業とか大企業がスタートアップと付き合いやすいための施策とか、それに対する補助金じゃないですけど、うまくそういうものを国に要望していくっていうのもなんか大阪から発信していくには非常にいいのかなと思うので、私も考えたいと思いますんで、また一緒になっていろいろアイデアを出せばなというふうに思いました。山本委員ありがとうございました。フォーリー委員お願いします。

○フォーリー委員 今日のお話を振り返って、先ほど出てました大企業や中小企業のスタートアップの付き合い方というところで岡さんがおっしゃった作法っていうのは、すごく実はあって、これ両方側にあると思うんですけど、例えば経済団体に入って、スタートアップでこの頃参加をされる方も増えてきて、私もずっとそれに入って最初は作法が分からずに、結局うまくいかないとかなかなか紹介してもらって話を始めても、なんか作法が違ったんだみたいなことって、実はすごくあって、結局国籍が違う同士が話をしているみたいな感じだと思うので、そういうのはでも、どうやって教えるのかなっていうやっぱり体験談なのか、それともやはり場数を踏むことによって、双方がやっぱりそのときにスタートアップをもちろん作法を勉強しないとイケないんですけど、大企業側のほうがどういうふうにしてスタートアップの位置づけを理解して、うまくスタートアップを手の内に入れるといたら嫌な言い方ですけど、そういったことできるかっていうのはちょっと覚えてほしいなっていうのはあります。やっぱり大上段で上から来られると、スタートアップとしてはなかなか一緒に仕事がしにくかったりだとか、そういったところがどうしてもあるのかなとちょっと思ったので、今後一つ、作法っていうところはあんまり表面化してなかった非常に面白い話題だなっていうふうに思ったのが一つですね。

あとは、ちょっとどうするかっていうところなんですけど、人がいないっていうのがC E →C レベルだけではなくて、エンジニアとかウェブ人材、I T人材がほんとにいないくてスタートアップっていうのはねなかなかとれないところですね。そうすると国全体として業務委託で週1日の稼働で月50万で週5日やって、こんな人がめちゃくちゃ増えてきたときに、社としてどういうふうな人材をどう育てていくのかっていう日本全体としての人材問題というのが一つあるので、こちらについてはスタートアップもそうですし、スタートアップのマンパワーをどういうふうにがっつけるかっていうところを含めて、何かそのスタートアップ人材だけでない今、日本で枯渇しているようなI T人材ですとか、そういったところも行政こそがバックアップしていただけるような仕組みがあると、やっぱり企業側としては非常に助かるのかなというふうには思います。

○北岡委員長　ありがとうございます。作法の違いというのも岡さんが一番経験されていると思いますけど、ほんとにスタートアップと企業の作法って全然違って、やっぱりフォーリーさんがおっしゃるようにベンチャーの技術だけじゃなくて、そこにいる人まで含めて抱え込めるかっていうのが大企業側にあると、うまく結構マッチングできるところあるのかなと思いますし、あとはちょっと最近一部で我々も取り込もうと思っているのは企業からの出向者をスタートアップに入れることによって、お互いまず理解し合ってその中で人なりと技術を見極めて業務提携に持っていくっていうのが一つだと思いますし、出向までできないのであれば副業とかっていう形を使っていくっていうのもあるのかなっていうふうに思っていて、そういった意味では関西で中小企業、中堅企業、大企業はものづくりとしては、いっぱいあるので、その辺を促進させるような施策があると関西らしい形でひょっとしたら、山本委員がおっしゃるようにドイツとかものづくりの産業拠点との連携とかっていうのを広まっていくのかなっていうのを感じましたので、今日三人の委員から結構私も勉強になりましたけども、非常にいい助言をいただけたのかなというふうに思いましたので、何かうまく来年、R5年度に向けてうまく何かつながるように今年度活動を進めていただければと思った次第です。

何か言い残したことございますか。大丈夫ですか。はい、ありがとうございます。では、マイクのほうを事務局のほうにお返したいと思います。各委員の方々いろいろ御助言いただきましてありがとうございました。事務局のほうよろしく願いいたします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）　委員の皆様、長時間にわたって御議論いただきまして、誠にありがとうございました。本日いただきました御意見を今後の本市のスタートアップ支

援施策に活かしてまいりたいと思っております。

なお、次回の評議会の開催につきましては、事務局から後日また日程調整の連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の評議会は以上で終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

閉会 午後4時54分